

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1473200283
法人名	社会福祉法人秀峰会
事業所名	樹林の風
訪問調査日	2017年9月8日
評価確定日	2017年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200283	事業の開始年月日	平成9年10月28日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	社会福祉法人 秀峰会			
事業所名	樹林の風			
所在地	(〒241-0806) 横浜市旭区下川井町218-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成29年7月4日	評価結果 市町村受理日	平成29年12月8日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://.shuhokai.or.jp
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から18年、日々、地域の方々のご理解とご支援を頂きながら、職員一人ひとりが伝統を継承する意識を持ち、日々の活動に励んでいる。緑豊かで家庭的な雰囲気のもと、入居者の方々が毎日生き生きと生活出来るよう、入居者本位のサービスを提供出来るよう心掛けている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成29年9月8日	評価機関 評価決定日	平成29年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●グループホーム樹林の風は、社会福祉法人秀峰会の経営です。この法人は、横浜市中心に9カ所のグループホームをはじめ、介護・医療・保育など多くの事業所を運営し、包括的・統合的に福祉サービスを行っています。この事業所は、法人として最初に開設したグループホームで、相鉄線「二俣川駅」から15分程度バスに乗り、「旭高校入口バス停」から徒歩5分程度の場所にあります。広々とした静かな住宅地にあるこの事業所は、1ユニットからなる平屋の戸建ての造りになっており、周りには四季を感じられる環境があり、利用者にとって安心と安らぎを与えてくれます。近くに、法人発祥の「特養さくら苑」があり、様々な行事を共同で行ったり、利用者同士の交流も図っています。また、セラピー犬「りん」の存在が、職員と利用者に笑顔をもたらしています。

●法人の理念として「人間が主体である」「連帯の輪を無限に広げていく」「日に日に新たな今日を創造していく」を掲げています。事業所は名前の由来である「しっかりと根を張った樹林の中を爽やかに、自由に吹く風のようにその人らしく生活していただく」という方針で、歌会・カラーパード・気功体操など多様なイベントを行っています。また、毎年行う事業所のバーベキューには今年も60人～70人が参加するなど地域の恒例行事にもなり、法人の理念「連帯の輪を無限に広げていく」を着実に実践しています。職員の教育と研修にも注力しており、職員一人ひとりが法人の理念・行動規範を書いた「羅針盤」を携帯し、月1回の法人事業部研修では、様々なテーマで研修を実施しながら理念の実現に取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	樹林の風
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の「連帯の輪を無限に広げていく」という理念のもと、日々、近隣の方々や地域との関わりを大切にしたい援助を心掛け実践している。	事業所は、法人の理念を共有しています。法人代表による毎月2回のテレビ朝礼などで、その理念を共有し実践しています。法人の3つの理念は事業所内に掲示し、職員は、理念・行動規範をまとめた「羅針盤」をいつも携帯し、朝礼で毎日唱和します。特に、近隣や地域との日々の関わりを大切にしています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の定期清掃活動や季節ごとにお誘い頂く行事にご利用者と共に参加するなど日常的に交流がある。また、庭に咲いている花を届けてくれるなど、密な関係性をもっている。	下川井町内会に加入し、月1回の地域清掃・盆踊りなどに利用者と職員が参加しています。事業所行事のバーベキューには地域の方が多数参加してもらっており、地域との交流を深めています。地元中学生の職場体験実習の受け入れ、クリスマス会などでの幼稚園との交流など、地域に開かれた事業所を目指しています。ボランティアの受け入れもしています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事の参加他、施設の夏祭りに近隣の方々をお招きした際、推進委員会議の時などに現状をお伝えし、ご理解を頂く努力を継続している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容を報告した際にアドバイス頂いた内容を他の職員と共有、検討のもと改善を行ったり、催し物のお誘いを頂く時には積極的に参加サービスの質の向上に繋げている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域代表者（民生委員、第三者委員）、ケアプラザケアマネージャー、利用者、利用者家族などの出席で開催しています。行事報告や利用者の状況、事故報告、今後の予定などを議題として様々な意見をもらっています。事業所の「服薬無事故日数1000日以上」などサービス向上につながっています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	近隣の地域包括支援センターの主任ケアマネージャーを通じて近隣居宅事業所の新任ケアマネージャーの見学の受入を行っている。また相談員を導入し、外部の意見を参照に改善に取り組んでいる。	旭区グループホーム連絡会に参加し、行政との意見交換を図っています。研修会での横浜市の情報や内部研修で職員が共有します。旭区から介護相談員を受け入れ、利用者の支援に繋がっています。運営推進会議に参加している地域包括支援センター職員を通じて、行政と協力関係を築いています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内グループホーム合同の研修や事業所内研修でその内容を学び、周知徹底しながら、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束に関しては、法人事業部の研修が毎年あり、職員が参加しています。事業所の内部研修でも、スピーチロックや身体拘束ボーダーラインについても話し合い、身体拘束をしないケアに努めています。防犯上の観点から議論していますが、現在は、地域の方が訪問しやすいよう玄関施錠はしていません。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内のグループホーム合同の研修や事業所内研修でその内容を学び、虐待防止の周知徹底に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、必要性を理解していると共に内容を他の職員にも伝えている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時にはきちんと説明を行ない、行き違いの無い様努め、その都度ご理解頂いている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を契約書に明記してある他、施設内にも掲げている。また、ご意見箱を設置している。	月に一度、利用者の近況を家族に知らせる「近況の手紙」や、写真入りで日頃の活動が分かる「樹林の風通信」を3ヶ月に1回送付し、今後の行事予定や取り組みを知らせています。運営推進会議で利用者家族から意見等を聞き、家族会でも意見・要望を聞いています。また、意見箱を玄関に設置しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や申し送り時、毎月の定例会議で各職員の意見を募り、業務の改善、ご利用者の処遇の向上に繋げている。	毎月全体会議を行い、法人の方針を周知し運営などについて管理者と職員で話し合い、業務に反映させています。正職員は、上期・下期についての目標設定とその評価のために年2回「個人面談」を行い、意見や提案を聞き、準職員も個人目標を掲げ、管理者が面談を行い意見や提案を聞く機会を設けています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の立場や経験に応じた勤務状況、実績を把握した上で各自がやりがいや向上心が持てるようサポートしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の事業部研修へは、職員の経験、介護職年数にあった者に受けるよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	秀峰会グループホーム9事業所14ユニットあり。月一回の頻度で各ユニットより1名以上参加する形で業務に付随した研修があり出席している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでご本人が困っていること、不安な事、求めている事等をご本人自身からよく聞く機会をつくるなど関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用に至るまで多くの不安を持たれる事は往々にあるため、ご家族の皆様が納得して頂けるように、見学やお話しをする機会を随時持ち、不安や求めている事を良く伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方のニーズを良く伺い、医療の必要性も考慮した上で、他のサービスの利用も含めて入居の妥当性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に同じ居で生活するという視点を持ち、人生の先輩として尊敬の念を持ちながら接し、日々の暮らしを充実した物に出来る様、支えあう関係を築ける様、努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りやクリスマス会等の行事の際に参加して頂いたり、受診の付き添い・外出・居室内の衣類の衣替えなど可能な限りご協力頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培ってきた個々の生活習慣を尊重し馴染みの場所や家族以外の知人とも疎遠にならない様行事へのお誘いや面会の機会を提供頂ける様働き掛けている。	入居前に、利用者がこれまで培った馴染みの人や生活習慣などを聞いたアセスメントシートにより、状況の把握に努めています。親交のあった友人をバーベキューなどの行事へ誘い、面会の機会を提供しています。家族からの電話の取り次ぎや友人への手紙送付の手伝いの他、家族の協力も得ながらお墓参りなどの馴染みの場所へ出かけられるように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の日々の生活状況、性格などを考慮した上で相互に交流が図れるよう、日々コーディネートしている。席の配置にも気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族からの相談や情報提供に努めている。退去しても遊びに来る方がいる。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや意向を出来る限り生活の中に取り入れる事の出来る様コミュニケーションをはかり、コーディネートに努めている。	入居時に、家族からこれまでの生活歴と思いや希望をアセスメントシートで提供してもらいます。家族の希望や医師の情報などに加え、利用者から漏れる言葉・表情・しぐさなどを「支援経過記録」に記入します。日々の支援の中で、一人ひとりの思いや意向を把握し、現状を職員間で情報共有しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至るまでの生活歴、サービス利用状況の把握に努め、それらの情報を日常のケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の方々の日々の状態把握に努め、変化を見落とさないよう、随時又は申し送り等で職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人始め、ご家族関係者から聞き取った内容をもとにアセスメントを策定し、具体的な介護計画ができる様努めている。	入居時は、暫定の介護計画を立て、1ヶ月以内で生活状態を把握し介護計画を立てます。月1回カンファレンスを行い、最長でも3カ月に1回利用者全員の介護計画の見直しを行っています。一人ひとりのモニタリングを毎月行い、介護計画へ反映させています。家族や医療機関の意見も聞き計画作成担当者が介護計画を作成します。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動内容、気付きや様子など個人記録に記録し、それらを落とさないよう、申し送り等で情報共有としている。又それを踏まえ介護計画にも繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人は勿論の事、ご家族のニーズに対し出来る限り対応して行く様努めている。（買い物・外食、レクレーション時など）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や地域の方々との継続的な繋がりを持つようコーディネートしている。（地域のお祭りや消防訓練など、近所の方を通じた交流がさかんにある。）気功月3回、フラワーアレンジ月1回行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を尊重し納得の得られた主治医と連帯が取れる様にしている。希望がある場合には、主治医となって頂ける医療機関を紹介している。	入居時にかかりつけ医の説明をし、利用者と家族の意向を確認しています。月2回、協力医療機関「御殿山クリニック」の訪問診療と週1回の看護師の巡回があり、24時間体制になっています。緊急時には「聖マリアンナ病院」「旭中央病院」の紹介もあります。週1回「さくら歯科」の往診があり、口腔ケアを受けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護担当者または訪問診療担当看護師にその都度、個々のご利用者の状況を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合、早期に退院が可能か否か、ご家族に許可をいただき病院を訪問したり、必要な情報を収集した上で病院関係者（看護師・担当医・ソーシャルワーカー等）と退院に向けたケアの内容を協議するなどしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合や終末期のあり方を確認している。その後、そのような状況が生じる場合、ご本人はじめ家族の意向を踏まえた上で、施設として出来る事を提案し、介護の継続にあたっては、本人を取り巻く関係者全員がその内容を共有出来る様、コーディネートしている。	入居時、重度化した場合の対応の指針を説明し同意書をもらい、終末期には利用者・家族の意向を踏まえ看取り契約書をもらいます。主治医の意見を聞き、家族の協力があり医療行為を必要としない場合は、看取りを行う方針です。事業所では職員の意思確認と「看取り研修」を実施しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況、状態に応じた迅速な対応が可能な様、定期的なシュミレーションを行うと共に、全職員に内容を周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の避難訓練の際には消防署の指導を仰ぎ、実施している。又、近隣のお宅には火災や災害時に協力を頂ける様、地域推進会議等で働きかけを行い了解を頂いている。	避難訓練については積極的に取り組んでいます。日中・夜間想定で年8回定期的に避難訓練を行っています。年2回は消防署の立ち合いで、年6回は事業所で実施します。利用者・地域の方も毎回参加します。AED訓練も実施し、職員のスキルアップに取り組んでいます。備蓄として米・水・食料など3日分用意しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格、プライバシーについて、尊厳を保つ行動が出来ているか振り返る機会を研修等で確保する機会を持ち日々のケアの中に役立てている。	利用者を「名字（姓）」にさん付けで呼び、名前は禁止し自尊心に配慮しています。プライバシーの確保については、法人と事業所での研修体制が整っており、利用者に対する接遇など徹底した教育をしています。礼儀正しい声掛けをし、トイレや脱衣所には扉とカーテンがありプライバシーに配慮しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の難しい方でも、個々の状態に応じて、表出出来る様な働きかけを行い、それが最大限可能な様にコーディネートしている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	たまかな日課（体操・掃除）はあるが、業務優先とした視点は持たず、その場の個々の方に合った臨機応変な対応を心がけ、傾聴しながら、自己実現が図れる様な支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の意向を尊重した支援を心掛けている。意向を持たれる方には家族に何らかの協力を依頼するなどし、実現できるよう対処している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関わる各場面においても好みや出来る事を重視したコーディネートを行い、個々の残存能力に応じた働き掛けを心掛けている。	朝食の食材とメニューは、自前の手作りです。昼夕食は食材会社を活用します。食事前に全員でビデオを見ながら、口腔ケア体操をします。手伝いが可能な方は、下膳やテーブル拭きの手伝いをしたり、おやつを職員と作ります。花見・バーベキュー・クリスマス・誕生日会などの行事食も実施しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者の栄養士が作成したメニューをもとに、個々のご利用者の状態に合わせた調理を行ったり、個々の方の嗜好や摂取量を確認の上、必要な対応や配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科による指導のもと、個々の状態に合った口腔ケアが出来る様、声掛け、見守りを行い、必要な方には職員が磨き残しが無い様、仕上げを行っている。月1回訪問歯科による口腔内のクリーニングを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の申し送りの内容や記録により、失敗の要因が、何処に有るか検討を行っている。快適な排泄が可能なように、日々の観察に努め、必要な対応が統一した形で提供できるよう支援している。	日々の申し送りと排泄状況を記録することで、利用者ごとの排泄パターンを職員が把握しています。自立排泄を目標に、利用者個々に定時の声掛けと利用者の様子を見ながらトイレ誘導を行います。夜間は睡眠重視の声掛けをしています。便秘対応として自然排便を心がけ筋力維持の体操を取り入れています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヤクルトやヨーグルトを提供するなどしたり、日々、散歩やアクティビティーを兼ねた運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	頻度、時間等の業務の都合にとらわれないよう、個々の方の意向を尊重しながら、気持ち良く入浴が出来る様援助している。	入浴は週2回以上、午前中心に利用者個々の意向に応じた支援をします。午前中にバイタルチェックをし、楽しい入浴のため季節に応じたゆず湯・菖蒲湯などの工夫、同性介助にも配慮しています。入浴拒否の利用者には、時間を空けた声掛けなど柔軟な対応で浴室に誘導します。湯舟は広く、足が延ばせます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々、各々の方の習慣や日中の活動状況を踏まえながら、快適な睡眠や休息が取れる様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察時の主治医からの話や個々の処方箋の内容を誰が見ても分かる様な形でファイリングし、その内容については全員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の方の生活歴、残存能力を見極めた上で、役割に繋がられる場面をコーディネートしたり、張り合いや喜びを感じて頂けるような援助に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りご本人の意向やご家族の意向に添い、買い物や外食等に出掛けられる様支援し、内容によってはご家族に協力を頂くなどして実現出来る様になっている。	事業所が見晴らしのいい自然豊かな高台にあり、散歩は午前中、天候や利用者の体調を考慮して日々行きます。食材の買い物に出かけたり、「特養さくら苑」の催し物に参加したり、他のグループホームとの交流もあります。毎月の事業所行事での外出、家族と食事や墓参りなどでの外出を支援をしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じ、買い物時のお支払いをお願いしたり、自己保管して頂いている。外出時など、自ら選び購入する喜びなどお金を使う楽しみを味わって頂ける様配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方と年賀状や葉書のやり取りを行える様、電話で近況を伝えることの出来る様、随時コーディネートしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各空間の環境面にも着目し、快適に過ごして頂けるよう、空調や照明、TV等の音の具合を調整したり、季節に応じた花や写真を展示すると、各空間の環境面に配慮している。	広いリビングは、天井が高く天窓もあり、明るい空間になっています。玄関にテレビとソファがあり、来訪者と話がしやすく、リハケア体操やゲームを楽しんでいます。共有フロアの壁面にはカラーボードで作成した利用者全員の作品を飾っています。セラピー犬「りん」は、利用者の笑顔を作り、職員や利用者同士の話題の中心になっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう、ソファや椅子を共同空間に複数配置したり、時には、そのような関係が構築できる様、援助している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品に囲まれることで得られる安心感や居心地に繋がられるよう、ご本人やご家族に相談しお持ち頂くなどしている。	各居室は掃き出し窓で、明るい居室になっています。エアコン・クローゼット・介護用ベッドが完備されています。利用者の居場所を作るという観点から、安らぎを得るような馴染みの使い慣れたものを持ち込んだり家族の写真を飾るなどしています。居室の掃除は職員と運動を兼ねて利用者も一緒に行っています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の方の出来る事、わかる事を見極めた上で、それらが日々実現出来る様、安全面にも気を配り、自立に向けた生活が可能ないように環境面の援助も行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

樹林の風

作成日

平成29年9月8日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。